

棚尾地区まちづくり事業

平成25年11月27日(水) 19時～

棚尾公民館3階

## 第29回 棚尾の歴史を語る会 次第

進行 (小笠原幸雄)

1 前回までのテーマに関する参考意見など

チャラボコ、棚尾の消防、名倉半太郎所蔵俳句短冊集など

2 テーマ51 「平和用水」

(1) 説明 (磯貝国雄)

(2) 出席者による補足説明、感想など

3 テーマ52 「堀川の沿革」

(1) 説明 (磯貝国雄)

(2) 出席者による補足説明、感想など

4 連絡事項・情報交換など

まちの文化財「高札舎」をみんなで塗り直そう！にご参加下さい

12月8日(日) 9時～12時

5 次回日程

第30回12月19日(木) 午後7時から

「青年団」「鋳物業」

第31回1月22日(水) 午後7時から

「達吉のふるさと短歌」

## テーマ5 1 「平和用水」

### 1 要旨

明治38年（1905）から同41年にかけて「平和用水事業」という大規模な農地かんがい事業が行われた。新道町において、油ヶ淵の水をポンプで汲み上げ、そこから南の農地に用水を流すという事業である。同時に、耕作し易くするため農地の形状を整える耕地整理事業も行った。この時代は日露戦争が終り、平和を願う気持ちから「平和用水」という名称が付けられた。棚尾は南端部にあたり、現在の源氏神明町、沢渡町、作塚町、栗山町、春日町がその施行区域に含まれていた。

### 2 事業概要

#### (1) 概要（出典：碧南事典）

明治25年（1892）鷺塚村の藤浦善八郎は、あふれる油ヶ淵の水を汲み上げて、水不足に悩む碧南台地の耕地に流し入れるという画期的な計画を立てた。（しかしこの時は多額の費用を要するという事で中止となる。）

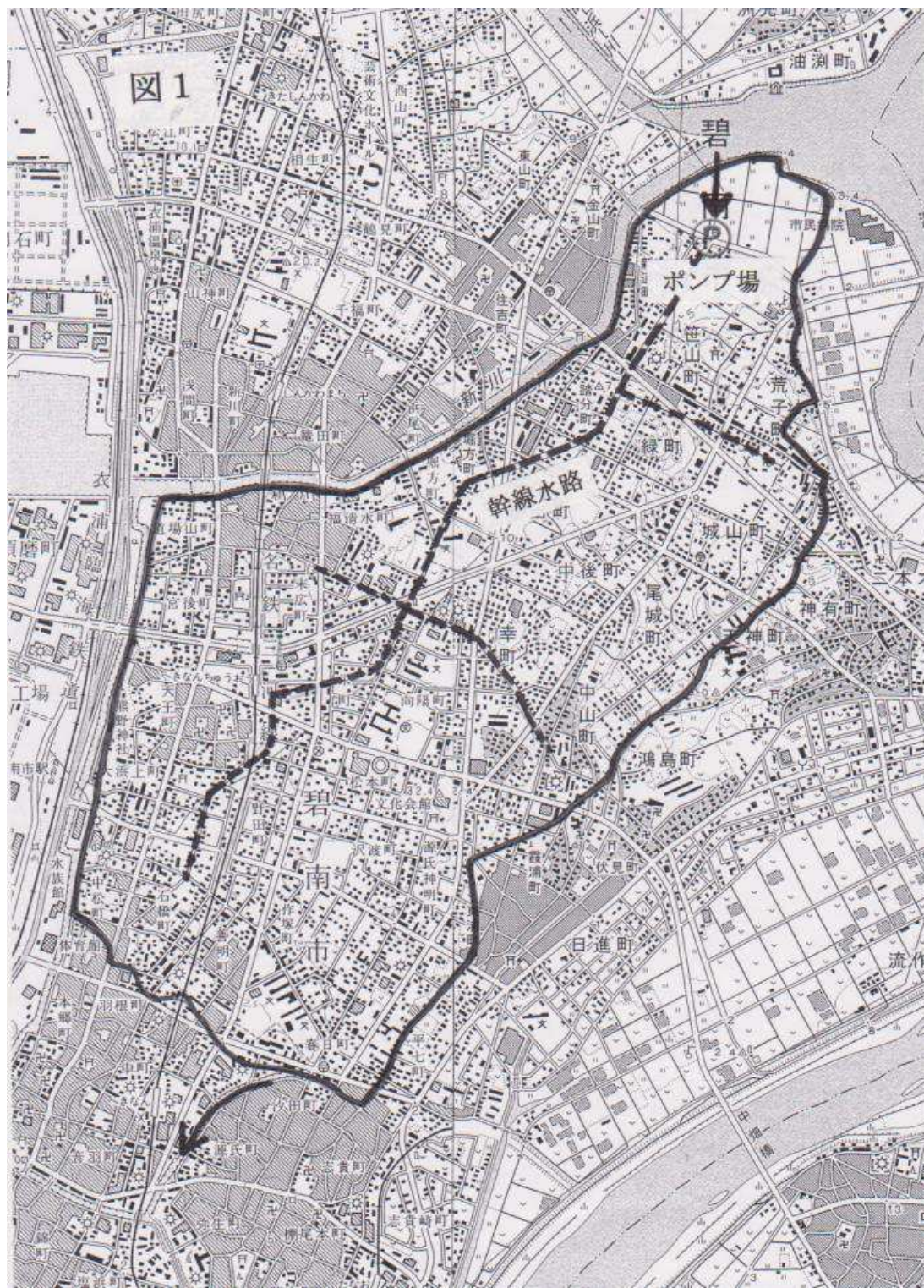
明治37年3月、西方寺での戦時農業についての演説会に集った碧南の各町村の代表者により、耕地整理と揚水事業を企画することを決定した。その後、新川・大浜・棚尾・鷺塚の連合耕地整理組合が結成され、委員長に岩田以手紙、工事係長に藤浦善八郎、会計係長に角谷安兵衛が選出された。

明治39年（1906）3月に、揚水機の設置並びに農地の耕地整理に着手した。銀行よりの資金の借入や村民の協力により事業は順調に進み、同年6月には揚水機装置が竣工した。

油ヶ淵の水がポンプによって吸い上げられ、乾いた碧南の耕地に流れ込んで見事な水田に変わった。田植えをする農民たちの喜びは大きかった。碧南四か町村の耕地整理事業が完成し、平和用水の水が耕地に行きわたったのは明治41年（1908）8月であった。

耕地整理事業の完成式が中山神社の神殿で行われ、用水の名称が平和用水と名付けられた。平和用水の完成によって碧南における耕地の様子はすっかり変わった。

図1 施行区域図



耕地整理の前に249.4ヘクタールあった畑は整理後4.8ヘクタールに減少した。それに対し耕地整理前は85.4ヘクタールであった田は336.1ヘクタールに増加している。平和用水施設によって碧南地方の水不足が解消され、畑地が美田に変わったのである。

(2) 事業規模

施行面積 約 3 4 5 ヘクタール

土地所有者数 1, 1 5 5 人

(3) 年表

明治 3 8 年 耕地整理事業認可

〃 3 9 年 新川町外三ヶ町村連合耕地整理組合成立  
耕地整理工事着手、ポンプ設置水揚げ実施

〃 4 0 年 製塩業者から請願書提出

〃 4 1 年 工事完了 中山神社で竣工式

大正 2 年 字名改称変更届提出 登記完了

〃 3 年 平和用水普通水利組合設置

〃 7 年 記念碑除幕式

昭和 2 7 年 平和用水土地改良区に組織変更、事務を碧南市へ委託、  
貞照院で物故者追悼会を行う（以降毎年継続）

〃 5 0 年 平和用水土地改良区の解散

〃 5 1 年 平和用水史発行

平成 5 年 毎年行っていた物故者追悼会を終了する。

### 3 地名の変更

棚尾地区内の地名変更は次の通りであり、大正 2 年 4 月に登記変更が行われた。

(耕地整理前の字名)

春日東、善明坂、作塚、南作塚、沢渡、南沢渡、小栗山、作塚溜

(耕地整理後の字名)

春日、栗山、善明、作塚

図2 事業施行前（但し棚尾地区のみ）



図3 事業施行後（但し棚尾地区のみ）



#### 4 製塩業への悪影響

農業灌漑用水は末端において残り水が放流される。平和用水の場合、末端である棚尾地区において放流された水が堀川を通じて下流へ流れ、当時字源氏、字西山、字森下で行われていた製塩業に被害を及ぼす恐れが生じた。

「平和用水史」（平和用水土地改良区・昭和51年3月発行）の中に「工事進行中の紆余曲折」という一編があり棚尾事件（塩業者大挙押寄事件）と称されている。以下抜粋して掲載する。

この棚尾事件の資料として「請願書」と2通の書簡がある。

「請願書」

今般耕地整理ノ結果トシテ 碧海郡大浜町、全郡棚尾村ノ境界地点トシ堀川ヲ延長シ 耕地ノ悪水ヲ排出セシメントスル設計ノ計画サレツツアルヲ聞ク 該計画ニシテ 事実ニ現ハレニハ 我々製塩業者ハ多大ノ悪影響ヲ蒙リ 延テハ塩田ノ存廃ニ関シ 碧海郡中有数ノ名産品ヲ失フニ至ラシメン

左ニ其理由ノ二三ヲ開陳ス

- 一 製塩使用ノ入浜汐水ハ可及的鹹味（かんみ）饒多ナルヲ要ス故ニ 降雨際ハ雨ノ止ムヲ待チ 直チニ雨水ノ排除ニカメサルベカラズ 然ルニ耕地ノ悪水流出来レハ 従テ淡味ヲ増加シ鹹味ヲ減少セシムルハ当然ナリ 此ノ鹹味減少セル汐水ヲ使用センカ 採鹹其量ノ少キノミナラス煎熬塩ノ品質悪シク劣ヲ見ルヤ言ヲ俟タサルナリ
- 二 我々大浜及棚尾ノ塩田地況タルヤ尤モクシテ 小汐ノ時ノ如キハ干潮ニ際シ現今形成サレアル堀川ノ水平線ヨリ 塩田地形高キコト寸余ニ過キサレハ 雨水排出ニ於ケル一昼夜両度ノ干潮ヲ 数度経過即チ二日乃至三日ノ後ニシテ 全ク之レヲ除去セシムルヲ得 而シテ尚乾田セシムルハ夏期ニ於テモ四日ヲ費ササレバ採鹹ニ着手スルヲ得ス 然レハ降雨止ムタル後雨水ノ排出ト 乾田トヲ通シテ六日ノ晴天連続セサレバ一回ノ採鹹ナスヲ得ス 従来ノ天候統計表ノ示ス処ニ依レハ六日或ハ七日ニ降雨アルコト尤モ多キカ如シ 然ルニ耕地整理ノ悪水流シ来レハ 堀川ノ水量ヲ嵩マシムルヲ以テ 排出ニ前記以上日数ヲ要スルトキハ 一同採鹹ヲ為サス空シク労力上損失ニ帰スルナリ
- 三 既ニ本年度如キ耕地整理一部ノ悪水堀川へ排水サレシ為メ 塩田ノ排水意ノ如クナラス 採鹹度モ前年度ニ比スレハ 天候以外ニ多大ノ減退ノ形成ヲ示シツツア

リ

右列述シタルハ其理由ノ著大ナルモノヲ陳シタルノミ 僅少ノ害列挙スルニ違アラス 幸ニ賢明洞察ニ一任ヲ請フ 詮議ノ上耕地悪水流出ヲ除クノ良法ヲ講セラレン事ヲ 製塩業者一同署名捺印ノ上請願候也

明治40年9月30日

碧海郡棚尾村字 番地 氏名 印 棚尾村104名 (人名は省略)

全郡大浜町字 番地 氏名 印 大浜町 51名

棚尾村長石川宗七殿

これに対し、耕地整理組合から塩業者へ次の回答がなされた。

- 第一 降雨出水ノ場合ニ限り新水路へ放流スル事 原素高台ヨリ自然ニ流下スル要求ハ鷺塚用水へ収用シ 決シテ新水路へハ流下セザル事
- 第二 新水路開設ノ結果 万万々ニモ塩業者ニ対シ被害アリト認ムル時ハ相当ノ防禦工事又ハ他ニ被害ヲ除クベキ方法ヲ講ズル事 (之ハ仮令塩業者ヨリ要求セザルモ監督庁トシテ注意セシムル事)
- 第三 新設樋門ニ対スル戸扉ノ開閉ハ 万事地元村長ニ於テ相当取締ノ方法ヲナサシムル事



## テーマ52 「堀川の沿革」

### 1 要旨

現在の堀川は大浜港から汐田町の堀川緑地西までをいうが、堀川緑地が整備される前は棚尾公民館前までをいっていた。当初の開削された目的は塩田に水を引くことであったが、その後は排水、運河及び棚尾港など港として利用されてきた。

明治41年には平和用水の落ち水（用水の余り水）を流すため、子種橋の南から棚尾公民館前までを用地買収し、新しく河川を開鑿し現在の堀川ができた。

### 2 下流部

#### (1) 昭和30年代までの堀川下流

堀川の大浜地域内は左岸（南側）に緑地があるが、この地下には堀川ポンプ場からの放流渠が埋設されていて、末端は河口の大浜水門の海側にある。ポンプ場建設以前の昭和30年代までは、緑地部分までが川幅であり幅の広い河川であった。川は港にもなっていて、物揚場では舟が着き活気があった。その奥まった所に棚尾港があった。

#### (2) 高與橋建設について棚尾村へ同意

棚尾村の船舶が通行するので、橋梁の建設に付いて同意を求める必要があり、次のような記録が残っている。

大発第580号

大正6年3月27日 大浜町長 高松與吉

棚尾村長 石川宗七 殿

本町堀川通り字音羽ヨリ字濱道ニ到ル別紙図面之ケ所左記之通り工事施行到度ニ付貴村ノ同意ヲ得度此段及照会候也

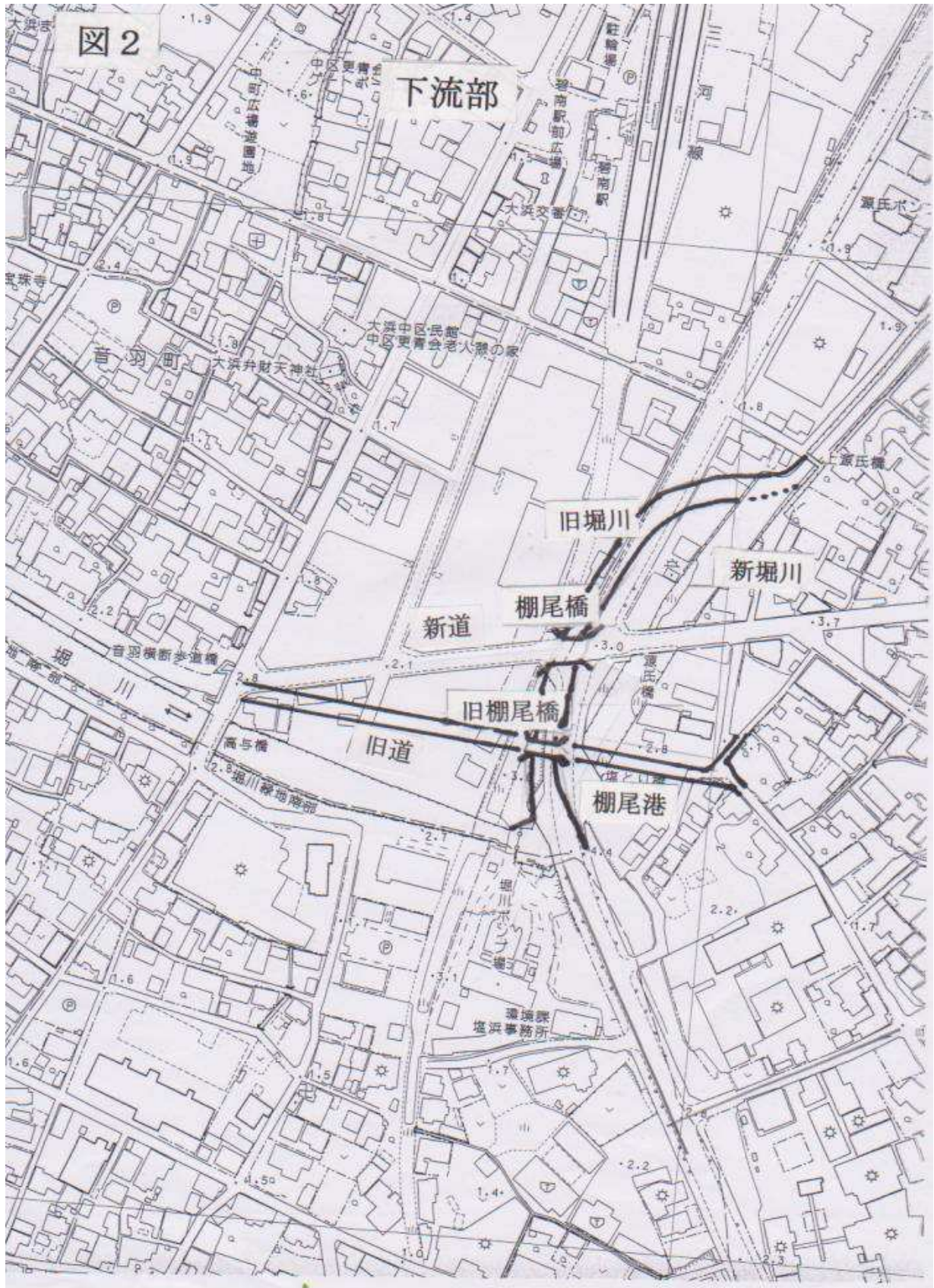
記

一 木橋架設 長13間 巾10尺

図面1 明治23年の地図



図2 堀川下流部



(3) 三河鉄道堀川鉄橋建設

棚尾町長からの陳情書

今般三河鉄道株式会社蒲郡線延長工事建設ニ付 碧海郡大浜町地内堀川（官有地）ニ架設スベキ鉄橋ヲ 下流高與橋ヨリ低ク架橋セラルルヤニ確聞致候 万一右様架設セラルル時ハ 船舶ノ交通ヲ阻害シ 其ノ上流ニ物揚場ヲ有シ 堀川ヲ通シテ貨物ノ上卸ヲナシ 重要ナル各地港湾ト通商シ 商工業ヲ営ミツツアル本町ノ如キハ大打撃ヲ蒙リ 商工業ハ之レガ為ニ全滅シ本町ノ死活問題ナリト認め候間 何卒下流高與橋中央最高点ヨリ低カラザル程度ニ 架橋相成様御命令有之度町会ノ決議ヲ以テ此段事情ヲ具シ及懇願候也

大正 14 年 3 月 2 3 日 碧海郡棚尾町長 小笠原半兵衛

愛知県知事 山脇春樹殿

※この結果

三河鉄道株式会社取締役支配人 梶尾嘉十郎

棚尾町長 小笠原半兵衛殿

大正 1 4 年 4 月 1 6 日

工事承認願

（河川及び水路）

第一堀川橋梁高桁下標準満潮面上 7 尺 5 寸トシ鋼 I 型桁 8 尺 2 連鋼板 3 0 尺ヲ架設シ……

(4) 棚尾港の浚渫

港は常に流入する土砂で埋るので、深さを保つ為、管理上浚渫が必要であるが、棚尾港についても次の文書がある。

堀川掘下ゲ施行ノ件許可申請

本町字源氏地先堀川 数年来ヨリ著シク土砂流込ミ之ガ為メ 荷物揚ゲ下ゲ其ノ他船舶出入非常ニ困難ヲ来シ候ニ付 今回該堀川掘下ゲ到度候間御許可相成度別紙図面相添此段申請候也

昭和 2 年 2 月 1 8 日

碧海郡棚尾町長 小笠原半兵衛

愛知県知事柴田善三郎 殿

(5) 堀川ポンプ場

棚尾と大浜地区の雨水排水を行い、棚尾では作塚町、春日町、栗山町、汐田町、源氏町、志貴町、弥生町が含まれる。排水ポンプ4台が備えられている。

(6) 源氏橋の橋梁名について

明治38年までは棚尾橋と呼んでいた。現在の棚尾橋はそれまでは棚尾新橋と呼んでいた。

### 3 中流部

(1) 源氏堰（いり）があった

堰とは水の流入、流出を調節する水門のことをいう。子種橋の下流で、現在源氏ポンプ場の排水口付近に、「源氏堰」があり、満潮時には水門を閉めて塩水が逆流することを防ぎ、反対に雨の時は水門を開き内陸の雨水を排出する役目を果たした。水門の開け閉めは番手がいて、村からは堰守費を払っていた。大浜町と共同管理であった。

この源氏堰の改修、共同組合設立及び廃止について次の記録がある。

ア 改修

明治31年1月許可

土木工事申請書 源氏堰伏替 樋管伏替工事変更増加願

棚尾村村長 榊原弥太郎

愛知県知事 江木千之殿 用悪水堰樋 長さ3間1尺7寸

イ 共同組合設立

明治31年12月 土木組合許可

ウ 廃止

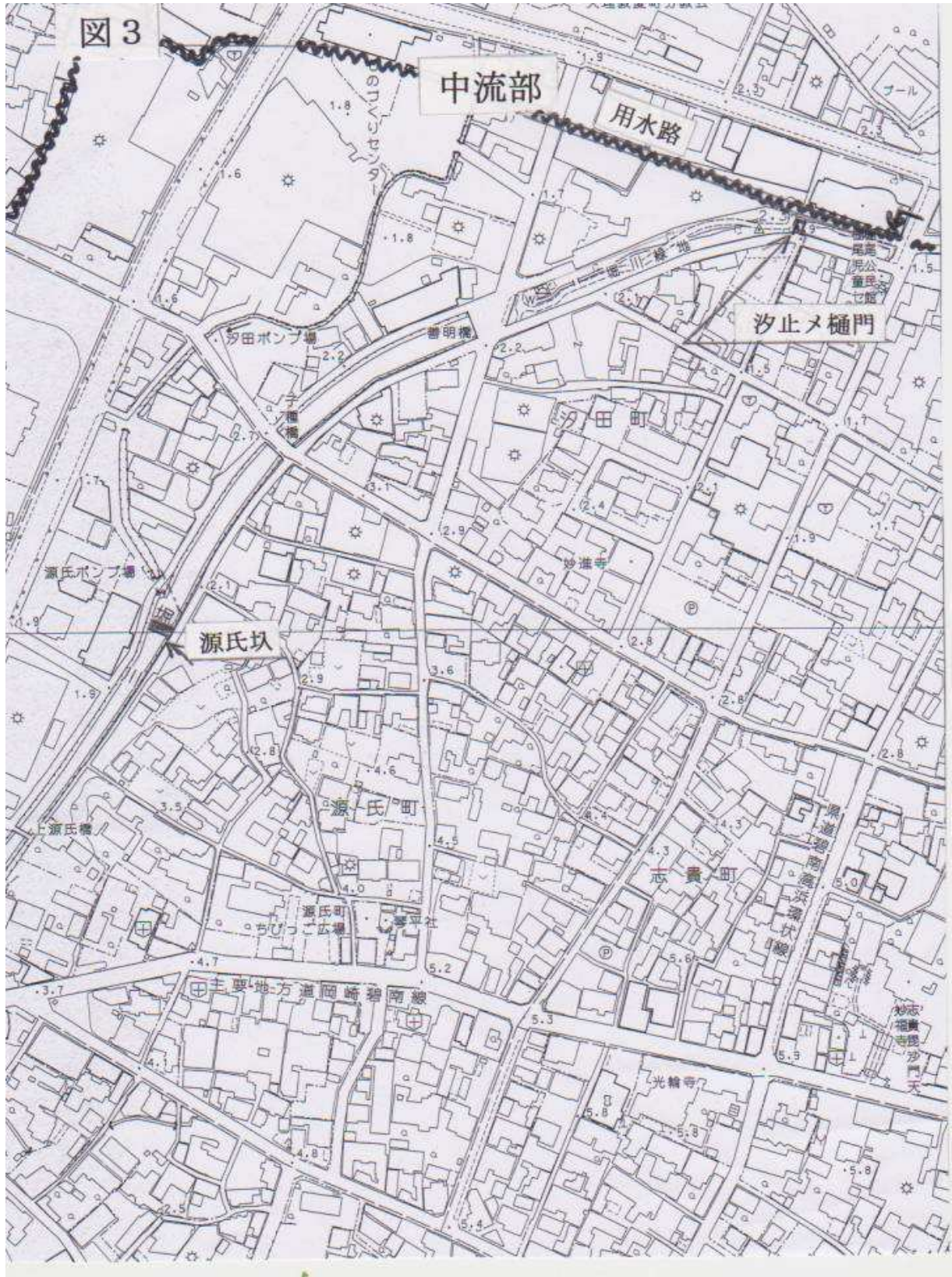
村議会 第4号議案 明治45年2月26日

棚尾村外一ヶ村樋管組合ノ解除

理由書

新川町外三ヶ町村耕地整理ニ関スル大悪水路開鑿ノ為メ 本組合ニ属スル樋管ハ位置ノ変更ヲ為シ 棚尾村ノ負担トナリタルニ依リ 従テ組合ノ必要ヲ認めサルニ付 茲ニ本組合ヲ解除セントスル所以ナリ

図面3 堀川中流部



棚尾村外一ヶ村樋門管組合管理者 石川宗七

(2) 新しい河川の開鑿及びその後の拡幅

ア 開鑿

平和用水からの捨て水を多量に流下させるため、今までの水路では間に合わなくなった為、現在の公民館から源氏ポンプ場排水口付近まで、用地買収し、開鑿工事を施工し新しく河川を造った。次の文書は工事費についての援助依頼である。

願

新川町外三ヶ町村耕地整理悪水路捨水ノ為 棚尾村字奥汐田外三字ニ開鑿（大浜町堀川通りヲ流レテ衣ヶ浦ニ入ル）致候處 堤防甚ダ勾配急ナレバ欠損シ易シ 尚ホ源氏坎取払高潮ノ節ハ必ラズ破壊スベキモノト被認候間 別紙図面ノ如ク凡ソ300間堤防外法高サ5尺石垣ヲ施シ 堤内法ハ1割8分ノ勾配ニ達スル迄腹付ヲ施行致度候 最モ大浜町ヨリ右様ノ申出有兩町村共同様ニ候間 工事費ハ前同様寄付金トシテ御出金被成下度此為連署ヲ以テ及御願候也

明治42年11月

大浜町長 鈴木七五郎

棚尾村長 石川宗七

耕地整理委員長 岩田以手紙 殿

イ 拡幅

（西側堤防の拡幅）

町議会第5号議案 本町字源氏ヨリ奥汐田ニ通スル堀川ヲ別紙図面ノ如ク拡張スルモノトス

大正14年4月24日提出 棚尾町長 小笠原半兵衛

理由

工業発展上之ガ拡張ノ必要ヲ認ムルニアリ

※この頃になると堀川の役割が排水の為だけでなく、運河の役割を果たし、工業の発展に 役立っている様子が分かる。

図面 4 堀川上流部



#### 4 上流部

##### (1) 汐止メ樋門

堰と同じ施設であるが、この頃にはこの名称を使用していた。現在の公民館の南、春日橋まで新堀川が開鑿され、現在の緑地折れ点付近に水門が造られた。しかしその後、下流の堀川ポンプ場堀川水門が設置された為撤去された。

平和用水と交わした契約書は次の通りである。

碧海郡柵尾村字春日東始メ五字地内ニ 開鑿ノ悪水路汐止メ樋門トシテ 明治41年12月全村字奥汐田ニ設置シタル人造石樋門ニ対スル将来ニ於ケル 維持修繕工費負担方法ニ付契約条件左記ノ如シ

一 修繕工費負担歩合樋守手当 (県費補助額ヲ除キ)



新川町外三ヶ町村連合耕地整理 5分  
棚尾村 5分

(以下は省略)

明治43年7月 日

新川町大浜町棚尾村旭村連合耕地整理委員長 岩田以手紙  
棚尾村長 石川宗七

(2) 春日橋から上流に排水路の新規開鑿

平和用水からの排水を受けるための排水路を棚尾村が建設した。

村議会第3号議案

道路改修並びニ耕地整理施行ノ結果 悪水路開鑿ノ必要ヲ生シタルニ依リ 別紙  
図面ノ如ク之ガ開鑿ヲ為スモノトス

大正10年11月25日提出

碧海郡棚尾村長 川口金次郎

(3) 堀川緑地の整備

平成12年堀川アクアトピア事業により堀川緑地が整備された。この事業は公共下水道として実施され、春日橋より善明橋まで堀川をボックス化し、上部を親水ゾーンなど緑地として整備した。これに伴い河川区域の上流端は緑地西側に指定変更された。